

乳腺・内分泌外科

乳腺・内分泌外科を選択科で研修する場合の初期研修プログラム

研修プログラムの概要・特徴

概要

選択研修においては、外科診療の基本能力に加え、乳腺・内分泌外科の基本的な診断法および手術、薬物治療を理解するため、外来患者、入院受け持ち患者の治療に積極的に参加・研修する。臨床腫瘍学の基礎的知識を身につける。

特徴

乳腺診療については手術療法だけでなく画像診断、薬物療法、緩和医療など、臨床腫瘍学の基礎を身につけることができる。内分泌外科としては甲状腺、副甲状腺の腫瘍を中心として、手術、術後管理を学ぶことができる。

研修の目標

【 一般目標 】

乳腺・内分泌外科の入院患者の受け持ち医と外来診療の検査担当医として、各手術適応の理解、術前評価、手術、短期長期の術後管理の経験を積み、化学療法、内分泌療法、分子標的治療などの薬物治療を実践する。また、手術時には外科基本手技の一層の向上を図る。

【 経験目標 】

1. 外科基本的手技

- 1) 圧迫止血法を実施できる。
- 2) 注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保）を実施できる。
- 3) 採血法（静脈血、動脈血）を実施できる。
- 4) 穿刺法（胸腔または腹腔）を実施できる。
- 5) ドレーン・チューブ類の管理ができる。
- 6) 局所麻酔法を実施できる。
- 7) 創部消毒とガーゼ交換を実施できる。
- 8) 皮膚縫合法を実施できる。

2. 基本的治療法

基本的治療法の適応を理解し、適切に実施するために、

- 1) 周術期の安静度、体位、食事、入浴、排泄の指示ができる。
- 2) 基本的な術後輸液管理ができる。
- 3) 薬物治療による効果と副作用について理解し、実施できる。

3. 医療記録

チーム医療や法規との関連で重要な医療記録を適切に作成し、管理するために、

- 1) 診療録を POS (Problem Oriented System) に従って記載し管理できる。
- 2) 手術記録を遅滞なく正確に記載できる。
- 3) 処方箋、指示箋を作成し、管理できる。
- 4) 診断書、死亡診断書、死体検案書その他の証明書を作成し、管理できる。
- 5) CPC (臨床病理検討会) レポートを作成し、症例呈示できる。
- 6) 紹介状と、紹介状への返信を作成でき、それを管理できる。

4. 診療計画

- 1) 外科治療計画（診断、治療、患者・家族への説明を含む。）を作成できる。
- 2) 診療ガイドラインやクリティカルパスを理解し活用できる。
- 3) 入退院の適応を判断できる。Evidence Based Medicine の概念に基づいた治療の選択ができる。もしくはその情報を自ら収集することができる。
- 4) QOL (Quality of Life) を考慮にいれた総合的な管理計画（リハビリテーション、社会復帰、在宅医療、介護を含む。）へ参画する。
- 5) 日常の外科診療経験を元に研究テーマを想起できる。

